

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	4390200097
法人名	有限会社 福寿荘
事業所名	グループホーム 福寿荘
訪問調査日	平成 21 年 5 月 20 日
評価確定日	平成 21 年 5 月 28 日
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家 族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日平成 21年5月26日

【評価実施概要】

事業所番号	4390200097
法人名	有限会社 福寿荘
事業所名	グループホーム 福寿荘
所在地 (電話番号)	〒866-0011 熊本県八代市井揚町2552 (電 話) 0965-39-6100
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本市水前寺6丁目41-5
訪問調査日	平成21年5月20日

【情報提供票より】(H21年 5月 20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成19年 10月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	11 人
利用定員数計	9 人
常勤8人, 非常勤3人, 常勤換算8.8人	

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造 造り	
	1階建て	1階

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,556 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	250 円	昼食	300 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4)利用者の概要(5月20日現在)

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	0 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低 75 歳	最高 88 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	岡村医院 、 八代病院 、 松下歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲にはビニールハウスが点在する田園地帯にある「福寿草」。無垢材が使用された明るく開放的なリビングや談話コーナーなど、ゆったりくつろげる場所が用意され、自宅と同じような生活が提供されている。開設して2年の新しいホームであるが、職員は大正琴や三味線で入居者を和ませたり、落語のCDを持参して皆で楽しむなど、入居者に家族のように接している。その日の希望や状況に応じて決められるメニューは野菜を多く摂取できるように工夫され、家庭的な食事風景が見られた。病院受診には看護職員が付き添い、家族の負担軽減と入居者の安心につながっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
		今回が初回の評価受審である。
重点項目	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4, 5, 6)
		評価については職員に説明し、今回の自己評価は管理者と運営者で取りまとめた。「取り組んでいきたい内容」に多くの書き込みが見られ、積極的に改善しようとの意欲が窺われた。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
		2か月に1度定期的開催。家族、入居者のほか地域の町内会長、老人会長、民生委員、行政職員をメンバーに、ホームの暮らしづくりや消防訓練、行政指導など報告し、意見をもらっている。出された意見や提案には前向きに対応し、ボランティアサークルや地域行事などの情報を得てホームの運営に活かしている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
		家族の意見や苦情などは、面会時に聞き取り、連絡ノートで職員間の共有が見られる。看取りまで行ってほしいという家族意見を受けて、当初の方針から変更し、終末期の対応を検討する等、意見を運営に反映させる姿勢が見られる。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
		地域の一人として町内会に加入。入居者は地区の運動会に参加したり、職員も防災訓練やミニバレー等に参加し、地域へ積極的に溶け込もうとする取り組みが行われ、ホームで「餅つき大会」を主催し地域住民との交流を図るなど接点を持つ努力も見られた。まだ開設して2年。入居者が地域と繋がりがながら暮らせる基盤作りに期待したい。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の「敬愛の心」は、開設にあたりホーム長と管理者が話し合い定めた独自のもので、「利用者自身の自分らしさを大切に、自由で居心地の良い生活環境の提供」を運営方針としている。地域密着型サービスとしての役割を反映した内容はまだ盛り込まれていないが、理念作りかえに取り組みたいとの意欲が見取れる。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホーム玄関に掲示されているが、周知のための取り組みはこれからとの反省が聞かれた。管理者と職員が理念について話し合い、ホームの目指すサービスのあり方を共有し、職員の行動指針とすることで、基本的なサービスに関する意思の統一がなされると思われる。	○	自己評価でも言及されているように、職員間で理念に関する話し合いを持ち、理念の具体化に意識的に取り組むことが望まれる。
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の一員としての暮らしが提供されている。地域の運動会や防災訓練、ミニバレー等のレクリエーションにも、入居者が参加できない場合は職員が参加し、地域住民としての役割を担っている。また、ホーム主催の「餅つき大会」ではチラシを作成し子供会に参加を募るなど、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	○	ホームの努力にも拘らず「餅つき大会」に子供の参加がなかったことは残念なことではあるが、あきらめず継続していくことで成果も現れると思われる。また、職員による介護教室等を開催し地域貢献に取り組むことで、交流の機会も増すものと思われる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議において自己評価について研修を行なったが、実際の自己評価記入はホーム長と管理者とで実施されている。多くの気づきが記入され、改善への意欲が窺われる。	○	次回からは全職員で自己評価に取り組むことで、課題の改善に対する職員の意識の高まりに期待する。また、取り組んでいきたい内容が計画的に実行されるよう、優先順位を考えた改善シートの作成も有効であると考えられる。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表・入居者・町内会長・老人会長・民生委員長・民生委員・行政職員に参加を依頼し、2か月に1回実施している。写真などを利用して入居者の暮らしぶりや消防訓練・行政指導の内容等を報告し、委員から町内運動会・地域行事への案内や、花見実施の提案等を得ている。意見は前向きに受け止め、実現へ努力されている。	○	外部評価の意義や、運営推進委員会の外部評価に係る役目について説明し、評価後の改善モニターの役割を依頼することが望まれる。また、運営推進会議議事録は利用者・家族・職員に開示することで会議の意義がより高まるものと思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政からは地域福祉に関する情報を得て運営に活かすほか、困難事例の相談などはできている。運営推進会議以外でもホームの実態等を積極的に伝え、問題点の共有を行うことで更に良い取り組みになると思われる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の健康状態や暮らしぶりは面会時に報告に努め、変化があった場合等の随意的報告は実施されている。金銭管理は定期的に出納帳により報告がなされている。職員異動に関する報告は今後の課題と思われる。	○	面会時以外にも定期的報告を行うことで、家族の安心感に繋がると思われる。また家族との馴染みの関係作りのために新任職員がある場合などの紹介が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には家族に話しかけ、そこで得た情報や伝言等は連絡ノートに記録し、職員間で共有する体制が出来ている。	○	率直な思いや意見が出しやすいように家族だけの集まりを提案するなど、積極的に意見を集約する機会を作るのも良いかと思われる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	単独型事業所であり、異動は無い。離職を最小限に抑えるために職員とのコミュニケーションを大切にしている。新採用職員には、入所者の記録を読み、生活歴などを把握した上で介護を行なうよう指導がなされている。また、夜勤に慣れるまではホーム長が共に夜勤を勤め、利用者へ安心感を提供するように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月内部研修を実施し、全正職員に出来るだけ外部研修受講の機会を均等に与え、出張扱いで支援を行っている。研修参加者は全体会議で報告し研修内容の共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、同業者との交流を図っている。看取りの事例報告会・新人講習などに参加した職員からは多くの気づきが報告され、サービスの質の向上に役立っているものと思われる。また、他ホームを利用者と共に訪問する機会を作り、積極的な交流が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の際は家族か現状を聞き取ったり、入院先を訪問し世間話で馴染みの雰囲気を作るなど入居の受け入れ手続きを行なっている。病院や施設からの転居者が多いが、入居後のゆっくりとした自由な雰囲気と、マイペースの生活に、状態も改善し、安定した暮らしが提供されていることが窺われた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者から昔の遊びを教わったり、一緒に干し柿を作ったり野菜の皮むきや洗濯物たたみなどの家事を協力しながら行う関係作りに努めている。食後の団欒では、入居者と職員が寄り添い語り合う場面が見られた。	○	ともすれば「してあげる介護」になりやすいが、お願いできそうな仕事を頼むことで、本人の「生きる力」を伸ばす支援を期待したい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	9人9様の思いの実現は難しい面もあるが、閉じこもりがちな入居者の好きな遊びに取り組んだり、歌や花の栽培等、思いに沿うよう努めている。最近センター方式のシート記入を取り入れ、情報の把握や検討に役立てることを始めており、今後期待される。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族からの聞きとりや看護職員の助言を基に、計画作成担当者が介護計画を作成している。介護計画は個別の介護経過記録と向き合せにカードックスに挟み、ケアに常時反映できる工夫が見られた。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月毎にモニタリングを実施し、概ね認定期間に沿った計画の見直し実施と、全体会議で協議を行い、期間終了前でも必要に応じた計画変更を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診の同行や、買い物等の外出希望には状況に応じた柔軟な対応がなされている。帰宅願望者の思いを受容し、気持ちが落ち着くまで一緒に歩くなど、入居者の思いに沿った支援が見られる。家族と一緒にの花見や温泉旅行の実現も検討中で、多機能性の更なる充実が期待される。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の継続受診を支援し、通院には主に看護職が同行している。入居者の日常をよく知る職員の同行は適切な受療に繋がると思われる。受診結果は家族の面会時に報告している。歯科に関しては往診もあり、ケアプランに添った支援が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時には、重度化した場合の退所・医療機関への入院等について説明を行っていたが、看取りを望む家族の声を受け止め、終末期にも対応できるようホームの方針を策定している。方針の具体化・職員研修への取り組みはこれからとなっている。	○	看取りへの対応は、入居者や家族の大きな安心につながると思われる。具体的な援助内容について、家族との段階的な話し合いや職員研修がこれからの課題であると考えられる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録は事務室のキャビネットに保管され、情報管理が適切に行なわれている。排泄介助に関して勉強会を行い、誇りに配慮した声かけ、プライバシーの確保についての研修を実施しているが、一部でドアを開けたままでのトイレ介助が見られた。一層の配慮が必要かと思われる。	○	排泄介助に関しては、勉強会やミーティングで繰り返し具体的な対応法の確認をお願いしたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の体操、10時や3時のお茶、3度の食事時間等、ある程度の決まりはあるが、一人ひとりのペースに配慮し時間をずらす対応がとられている。日中は、リビングのソファで昼寝をしたり、おしゃべりしたり、洗濯物をたたんだり、テレビを見たり、自室で面会に来た家族と過ごすなど、それぞれのペースを大切に自由な暮らしの支援が見られた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入所者の希望を尋ね、手持ちの材料を利用したり、必要な食材購入に出かける等、家庭的な食事仕度風景が見られた。入所者も皮むき・野菜切りなどの下ごしらえを手伝い、一緒にテーブルを囲んでいる。新鮮な野菜を豊富に取り入れた食事は入居者に好評で、手作り弁当で花見をしたり、時にはレストランに出かける等、食べる楽しみを大切に支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本は1日おきの入浴だが、失禁時や本人の希望によっては柔軟な入浴支援がなされている。入浴拒否の入居者には、言葉かけの工夫や、場面を変えて気長に呼びかけるなど、スムーズな入浴に繋げている。夕方や夜間の入浴も検討したいとの意向が窺えた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	餅つき・カルタ取り・初詣・誕生会・節分の豆まき・雛祭り・花見など、季節ごとに楽しむ機会を作り、気晴らしの支援を行っている。また、ぬりえ・書き取りや計算・花植え・干し柿作り・歌の会など、張り合いや喜びのある暮らしの提供も工夫している。職員の私物の落語等のCDを楽しんでもらうなど、家族的な支援が見られた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買出し同行や希望に添った臨機応変な外出支援が行われており、計画的な外出だけでなく、入居者への状態や天候に合わせて少人数での外出も実施されている。毎夕の帰宅願望者には職員と一緒に寄り添い、歩きながら気持ちが落ち着くまで支えている。	○	庭にベンチ等を置き、日光浴やお茶を楽しむ機会を作ることで、外気にふれ気分転換の支援もできるかと思われる。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は施錠せず、出入りはセンサーで把握し安全に配慮しながら自由な外出ができるようになっている。職員は対面式キッチンで料理を作りながら、また、事務室で記録を取りながら出入りを見守り、帰宅願望のある入居者にはその都度声かけを行い、居場所の確認や安全の確保に努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者を選任して消防計画を作成し、消防署に届けるなど危機管理意識は高い。年に2度防災避難訓練を行い、入所者が訓練用の水消火器の使用にも参加している。また、夜間の火事を想定した訓練では、3人が自力、5人が介助しながらの避難を実践し、所要時間も測定しており、災害時に備える心構えが窺えた。	○	緊急時避難協力体制作りに、地元消防団や近隣住民の協力が得られるよう、運営推進委員の積極的な働きかけによる支援が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜を多くとることを心掛けたバランスの良い食事が提供され、毎食の献立と摂取量を記録し栄養確保を行っている。水分は1日1000cc以上を目安とし、摂取に努めている。体重測定を毎月行ない、健康維持・管理への努力が見られた。一人ひとりの状態に合わせた刻みやとろみ等の細かな支援も行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	無垢材が多用された室内は優しい色合いで、窓を大きくとったリビングは明るく開放的である。対面式キッチンからの煮物の匂いや炒めものの音など五感が刺激され、寛げるスペースは広い。ただ、管理者も指摘のように季節感はやや乏しく思われる。	○	運営推進会議のメンバーや家族にもモニターしてもらい、家庭的な雰囲気になるような工夫を続けていただきたい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームからは入居時、使いなれた家具や好みの物の持込を依頼しているが、置き畳や寝具以外の持ち込みは少なく、職員手作りの飾り台が唯一の家具としておかれているだけの部屋が多い。職員は布団だけでなく畳も干して、快適な睡眠に配慮している。	○	入所者の気持ちが和らぎ、安心に繋がる部屋作りに、家族の協力が望まれる。また、本人と話し合っ、その人らしい部屋作りの支援に期待したい。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム福寿荘
(ユニット名)	福寿荘
所在地 (県・市町村名)	熊本県八代市井揚町2552
記入者名 (管理者)	由解聖
記入日	平成 21 年 4 月 20 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	地域住民との交流のもと、新たな理念づくりに取り組みたい。
<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	全職員が、理念の内容を振り返り、学習する機会を、定期的に設けていきたい。
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	まずは家族への説明。そして、運営推進会議をとおして、地域住民への理念の説明を行っていきたい。
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	町内会の活動への積極的な参加を行っていきたい。
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	地域の子供会へ呼びかけるなど、交流の幅を広げるよう努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	町内会に加わり、地域行事については積極的な参加ができている。しかし、地域の行事の範疇を超える参加には至っていない。	○	何ができるかを職員で話し合い、積極的に地域に対する働きかけの方法を検討していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	月1回の全体会議の際、自己評価の取り組みについて研修会を行った。具体的に評価項目を目標に掲げ取り組んだこともあるが、十分な成果は出ていない。	○	全職員が自己評価、外部評価について十分に理解し実践できるよう、研修の機会をもうけていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日々の活動報告を行っている。委員の発案により実現した活動もある。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	申請書類の提出や、具体的な疑問が発生した際に意見をうかがうことがあるが、積極的な関係づくりには至っていない。	○	まずは具体的な連携の方法を、行政担当者とともに検討していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は地域福祉権利擁護事業及び、成年後見制度について学ぶ研修へ参加したことがあり、地域福祉権利擁護事業については、制度利用の援助に携わったこともある。しかし、職員の学習については未実施。	○	両制度についてさらに深く学び、全職員へ制度の周知ができるよう、研修を行っていきたい。制度について、必要なケースについては活用できるよう支援していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、高齢者虐待防止関連法についての研修に参加し、学習しており、全職員に対し研修会も行っている。	○	定期的に虐待について学ぶ機会を設け、全職員が話し合えるようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分な説明を行い、納得していただいた上での利用開始となっている。家族には十分な説明を行っているが、利用者本人への説明については、本人の理解力や、精神的負担を考慮し、家族にゆだねていた部分もある。	○ 終末期について、入所時にはその可能性が少なくても、事前に十分な話し合いの場を設けておくようにしていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訴えの方法は様々であるが、明確に意思を表すことができない利用者の、その時の気持ちを読み取る努力を行っている。	○ 専用の記入用紙を作成し、聴取した意見を文章に記録するなどし、それを運営に反映できるような仕組み作りをしたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	緊急時はそのつど報告。日頃の暮らしぶりについては、面会のたびに報告している。金銭管理については、現金出納帳に記入し、3か月おきにその写しと、領収証を家族に渡している。	○ 面会が少ないご家族への報告の方法を考え、密に行っていききたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見、苦情等あった場合は、その日の出勤者には即日伝達、また非出勤者には、連絡ノートで情報を伝達し、共有できるようにしている。	○ 苦情受付窓口を設定しているが、十分機能していない。家族から意見が言いやすい体制整備が必要と思われる。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回全職員が参加し、職員会議を行っている。ケア方法や業務についての打ち合わせが主であるが、運営者が職員の意見を取り入れる機会にもなっている。その意見を運営に反映させたケースもある。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事予定日には事前に必要な人員を確保している。また、職員の急病等への対応ができるよう、日頃からコミュニケーションをとることで協力し合っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	単独型、1ユニットのため職員の異動はない。離職を抑えるため、常に人間関係に気を配り、職員とのコミュニケーションを大切にしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	正職員及びパート職員全員、ホーム内での勉強会ケアカンファレンスに参加している。また施設外研修の案内をし、参加を促している。全職員の情報の共有化、普及教育を図るため、研修参加者から研修報告をさせている。しかし、施設外研修への参加意欲に個人差が見られる。	○	全職員が均等に研修に参加し、全体のスキルの向上を図ってきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会八代部会の実施する研修会参加を促しているが、他ホームに比べ職員の参加が少ない。	○	積極的な交流や、研修への参加を呼びかけていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	機会があれば、職員との食事会を行い、運営者と職員との交流を深めている。	○	職員の意見を聴き、ストレス軽減について検討していきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	定期的な健康診断を行い、健康面への配慮を行っている。運営者自ら勤務表の作成、勤怠管理を行っている。また、職員とともにシフトに加わり、介護業務に従事することで現場状況の把握に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族との面談が主であるが、十分な時間をかけて、相談援助を行うよう心がけている。特別なケースを除いて、契約前に利用者との面接を行い、良い関係作りができるよう努めている。	○	今後も、持てる力に応じて、できるだけ本人に納得していただいた上での利用開始につなげていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	現在家族が困っていること。特に施設入居を考えるに到った経緯や現状を、時間をかけてしっかり把握するようにし、アドバイスをを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ほとんどのケースが、相談を受ける時点で、すでにご家族は入居についての思いが強い。まずは現状についてのアドバイスを実施し、真に入居が必要かの意向をつかむようになっている。場合によっては、他のサービスについてのアドバイスも行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の面接は通常一度しか行っておらず、利用前になじんでいただくのは難しい。しかし入居後はできるだけ面会していただくよう呼び掛けたり、家族とコンタクトを取り、家族の声を本人に伝えるように努めている。	○	利用開始前の、本人による見学なども受け入れていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事やお茶の時間を共にしたり、職員の会議に、利用者の方たちにも参加していただいている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時は職員はできるだけ話を聴くよう努めている。誕生日会など、特別な行事の際は家族もともに参加していただき、交流の機会を設けている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会の頻度など、家族ごとにはばらつきが見られるが、家族ごとの事情も考慮し、無理な面会をお願いすることはない。しかし、誕生日会など、特別な行事の際は、できるだけ参加をお願いし、本人とともにゆったりとした時間が過ごせるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前のかかりつけ医や、行きつけの理美容院へ継続して通えるよう援助している。知人、友人の訪問も歓迎している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う利用者同士の集まりは自然とできている。性格や能力面で孤立しがちな利用者の支援が十分にできていない。	○	利用者の孤立を防ぎ、支えあえる関係の構築を具体的に考えていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	一時的な入院の際は、面会など行っているが、在宅復帰や、他施設入居などの際は継続した関係作りができていない。	○	必要な家族や利用者に対しては、継続したかわりを持っていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や、本人の意向を把握するよう努め、できるだけ本人の意向に沿うようなケアを行っているが、まだ十分とは言えない印象。	○	できるだけ時間をかけて、利用者の意向把握に努めていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今後のケアに活かすためと説明し、了解してもらったうえで、本人、家族から聞き取るようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個別に生活状態を把握するよう努めているが、未だ十分とは言えない。	○	アセスメントも活用し、個別的な把握に努めていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的および、日常的にケア方法について話し合いを行い、介護計画書に活かせるようにしている。	○	家族も日常的に参加していただくことができるよう働きかけていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	著しい変化が生じた場合は見直しようにしているが、概ね認定期間にもとづいた更新になっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護経過記録に記入し、全職員は利用者の状態を把握するよう心がけており、特に周知が必要な情報は、別冊の連絡ノートで確認するようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	帰宅願望や、散髪、買い物の希望など、状況に応じて外出介助を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を通して、地域の民生委員や各会長職の方たちと連携を取っているが、利用者個別レベルでの協働は十分にできていない。	○	必要に応じた協働体制を整えていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	アセスメントに基づいて、歯科の口腔ケアサービスを受けているケースもある。	○	その他のサービスについても、必要性があれば積極的に支援していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	困難事例の相談を行ったことがある。それ以上の協働はできていない。	○	まずは運営推進会議への参加をお願いしてみたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前のかかりつけ医療機関に、継続して受診できるよう支援している。通院は特別な場合を除き、ホーム職員で対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>必要場合は、認知症専門医療機関を受診していただいている。定期受診を行い。そのつど必要なアドバイスなどを受けている。</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>看護師を医務担当とし、健康管理全般を受け持っている。緊急時の連絡体制も整え、機能している。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院中は、面会など行い、状態把握に努めた。早期退院に向けた連携については苦慮中である。</p>	<p>○ 各医療機関と、連携を取っていきたい。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ホームで対応できる範疇を超えた重度化の場合は、他施設への転居や、医療機関への入院を考えていただくよう、入居の際は説明しているが、家族からは、終末まで見てほしいと声が上がります。これまで終末期対応のケースはない。</p>	<p>○ 重度化や終末期に対応できる体制を整え、家族や本人が安心して利用できるようにしていきたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>現在終末期対応を行ったケースはないが、利用者の状態変化に対応できる体制を整えたいと検討している。</p>	<p>○ 終末期に向けて、事業所の意思を統一し、対応できるようにしていきたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>本人の戸惑いをできるだけ少なくできるよう、入所前の十分な情報収集につとめ、スタッフ全員が安心できるケアを提供するようにしている。入居直後はできるだけ面会を多くしていただくよう、家族への声かけもを行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄に関する声かけ等、個人のプライバシーに関しては、十分な配慮を行うよう心がけているが、未だ十分とは言えない。	○ 個人の尊厳を守る処遇に努めていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	説明には、その人が理解しやすい言葉を使うようにしている。	○ 理解していただいたうえ、本人が納得して自己決定できるような援助方法を検討していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間は定めているが、個別的に時間をずらした食事提供を行うなど、できる範囲で行っている。そのほかの生活時間は特に定めていないが、行事の際などある程度都合に合わせていただくこともある。	○ 外出や、買い物など、できるだけその日のその人の希望を聞いて支援していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行きつけの理容美容室へ通えるよう支援していたが、家族より、ホームでお願いしたいとの声が多く、現在は職員によるカットを行っている。利用者からの評判も良好。家族によるカットを受ける人が1名、行きつけの美容室の訪問を受ける人もおられる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	対象者は限られるが、野菜の下ごしらえや食器の片付けなどをされている。食事の際も入居者、職員ともに食べている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒、喫煙される利用者はいない。飲酒を希望される利用者もおられるが、Drストップのため提供できない。	○ 一人ひとりの希望を聞きだし、個別に対応できるような体制づくりを行っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	援助が必要な利用者については、個別の排泄パターンを把握するようにして対応している。しかし、未だに失敗がみられるケースもあり、十分とは言えない。	○	本人の細かなサインを見逃さず、失敗前の排泄介助に努めていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があれば順番を変えたり、湯船に一人でゆっくりつかることができるような配慮も行っている。しかし、完全に希望に添う入浴タイミングの実施は困難。	○	夕方または夜間の入浴の体制など、検討していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	自室や、それぞれの休息場所ですごされる時間を妨げることはない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	楽器を使った、音楽レクリエーションを実施している。また、過去に獲得された能力を活かせるよう、裁縫や、調理の下ごしらえなどを行っていただいている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1名の利用者が、自己管理されている。支払の際は一部援助のもとご自分で行われる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物やドライブなど随時行い、外出の機会が多い。利用者の希望による突発的な外出も、できるだけ対応できるよう努めている。	○	外出される利用者が固定化しないようにしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	夏祭り、文化祭、運動会など、季節の行事や、バスハイクなど、特別な外出の機会も多い。しかし、家族への同行参加の企画や声かけを行っているが、未だ実現していない。	○	家族とともに外出できる機会を作っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、深夜等特別な時間帯でなければ対応している。しかし、自分で番号を押せることができる利用者はいない。自筆の絵手紙を出されたケースは1例のみ。	○	職員の援助のもとでも、ハガキによる季節のあいさつなどができるよう支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は、家族による差はみられるものの、大変多い。面会時間も10:00～21:00と定めているが、他入居者に影響がなければ時間外でも認めている。	○	現在は、共有スペースのリビングでの面会が主なので、他者に邪魔されず、面会者とゆったりすごすことができるスペースの確保が必要と思われる。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止についての学習会を行い、身体拘束のないケアを行っている。身体拘束に具体的な行為については、いまだ学習不足の面も見られるため、更なる学習会の実施が必要。	○	全スタッフが正しく理解できるよう、学習会を重ねていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関には鍵をかけず、出入り自由としている。離荘者の安全管理については、見守りとそのつどの声かけを行っており、プライバシーに配慮しながら居所を把握するようしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、玄関は自由に出入りできる。利用者の行動パターンを把握し、帰宅願望等みられる際は、さりげない見守りや、何かの用事をお願いするなど、離荘にならないよう安全管理を行っている。夜間も、十分な配慮を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物、薬品類は所定の場所に保管しているが、鍵をかける等日常の保管の範囲を超えることはない。活動によっては、包丁や裁縫道具を使っていたりすることもありますが、使用者の能力に応じてさりげない見守りや介助を行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書を記入し、再発を防止する検討会を行っているが、十分といえる状況ではない。マニュアルの整備も不十分。	○	ひやりはつとを作成し、事故の発生を防止できるよう、職員一人一人の技能を高めていきたい。また事故防止マニュアルの整備も行っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	交代で消防署が開催する救命講習に参加して、緊急時に対応できる訓練を行っている。看護師への24時間連絡体制をとっているが、全職員が非常時に対応できるとはいえない。	○	全職員で、消防署主催の救命講習を受けていきたい。また、緊急時対応マニュアルの整備も行っていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者を選任し、消防計画を消防署に届けている。消防計画に基づいて、約半年おきに防災避難訓練を行っている。訓練の際の近所の住民の協力は得られてないが、実際の非常時には協力して下さるとのこと。	○	近隣住民との交流を積極的に行い、災害時の協力体制の整備に努めたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	健康状態の変化については、その都度家族に報告をしている。十分な対応策を話し合っているまでは至らない。	○	家族と十分な話し合いの機会を設けていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝の健康チェックを行い、検温表に記入している。体調の変化についても、早期に発見できるようにつとめ、異変時は受診につなげるようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医務スタッフを中心に、全職員が薬の把握をできるように努めているが、まだ十分とは言えない。薬の説明書は、個人ごとのファイルに添えて、いつでも確認できるようにしている。	○	全職員が、処方薬の内容を理解できるように、徹底していきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜や食物繊維の多い食材を使うようにしている。適度な水分補給や、体を動かす機会もできるだけ多くなるよう努めている。	○	できるだけ、下剤に頼らないように、左記を徹底していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯科衛生士による口腔ケアの研修を実施した。食後の口腔清掃は状態に応じて介助や声かけを行っている。しかし、習慣化しているとは言えない。定期的に歯科衛生士の支援を受けるケースもある。	○	毎食後の口腔ケアが習慣になるよう、継続して声かけを行っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の献立と摂取量を記録している。摂取量低下などがみられる際は、補食を行ったり、摂取していただけるような方法を検討している。水分量についても、表を作り記録している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	食中毒予防のためのマニュアルを作成し、職員全員に配布している。それぞれの感染症個別のマニュアルは未作成。インフルエンザ予防接種については、原則として利用者全員にお願いしている。	○	感染症個別ごとにマニュアル作成と研修会を行っていききたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	残った調理済みの食品は、その日のうちに処分するようにしている。台所には、食品にも使用できるアルコール消毒液を常備し、常に使用するよう心がけている。	○	マニュアルを作成し、衛生管理を徹底していききたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	敷地にはフェンスもなく、出入りは自由にできる。玄関周囲も必要最小限の手すりがある程度で、シンプルな作りになっている。	○	ベンチを置くなどして、立ち寄りやすく自由にくつろげるスペースにしたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調理場カウンターが、リビングに対面式になっており、食事前には調理の音や匂いがたがよい、生活感にあふれている。しかし、季節感の演出が十分にできていない。	○	草花の展示、季節行事の飾り付けなどを行い、季節感のある生活空間を演出していききたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	昼の談話コーナーがあり、常時数人の利用者にくつろいでいただけるスペースになっている。畳に寝転ばれることもある。廊下の一角に独りになれるスペースもあり、そこでたそがれてすごされる利用者もおられる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅生活時の家具や道具を、できるだけ持ってきていただくよう声かけしているが、持ち込み物品数も少なく、新品の購入も多い。閑散とした居室が多い。	○	家族への声かけを続けていき、馴染みの道具とともに生活できるよう努めていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	適度に窓の開閉を行い、換気を行っている。リビングは大変日当たりがよく、冬でも温かくなるため、廊下などの日陰との気温差が発生してしまう。	○	冬季の、リビングと廊下の気温差の解消が課題。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかりにくい段差はない。内壁周囲に手すりがあり、伝いながら安全な移動ができるようになっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	『便所』など、張り紙をしていることで、混乱防止のための、ある程度の目安になっている。しかし、全体的にみると、案内の掲示は不十分な印象。	○	文字や記号など、わかりやすく、煩雑にならない案内の掲示に努めていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物周囲は整備不十分な印象である。	○	建物前面の駐車場が広いので、ベンチを設置するなどして、外出時のくつろぎのスペースなどにしたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
		○	③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 利用者の意思を尊重しながら、それぞれのペースでゆったりとすごすことのできるよう、支援しています。
- 気分転換や、地域との交流を目的に、希望に沿った外出を行っています。
- 職員、利用者が、共通の生活時間を助け合いながらすごしていきたいと思えます。